

大原の里と比良の山

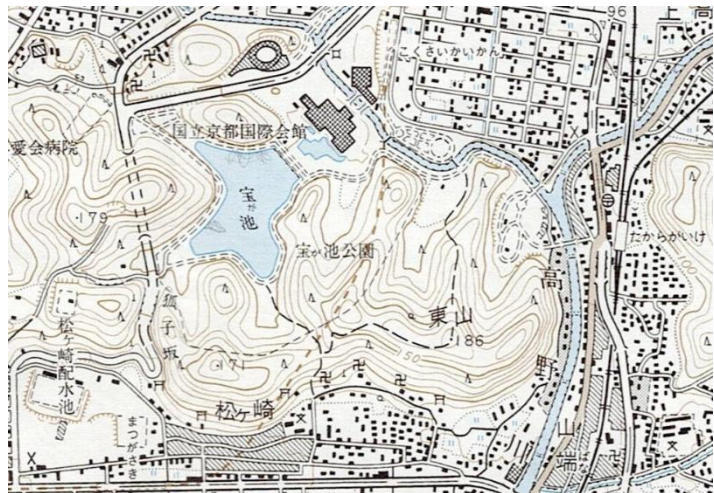
大原のオオムラサキを守る会
蓬 萊 む し の 会
第13号 2025.4.10

私の虫採り物語 (2) 懐かしの宝ヶ池

小松 清弘

学年が上がると採集も自宅周辺から広がって行った。特に宝ヶ池はよく行く場所だった。

松ヶ崎から狐子坂を登り池へ通じる道は結構広かった。池から先は当時まだトンネルができていなかったの池をめぐる遊歩道しかなかった。池の南東からは叡電宝ヶ池駅に通じる道があった。今も残る道で、当時はまだ子供の楽園がなく競輪場のスタンドだけがあった。競輪が開催されていた当時は大変な人出で京都市電が元田中から叡電に乗り入れていたらしい。



宝ヶ池周辺地図 (国土地理院電子地図より)

池からの道はもう1本あった。池の北東側の今は菖蒲園のところから岩倉、上高野へ通じる道だった。その道がよく行くポイントだった。

薄暗い樹林に入っていく細い道で小学生にとってはちょっと勇気がいった。心細い思いで樹林を抜けると目の前がパッと開けて広大な湿地が広がっていた。ここは京都国際会館の建設予定地で休耕田が湿地化していた。湿地の端の雑木林の林縁を細い道がのびている。林縁のコナラやクヌギを長竿でたたいていくとミズイロオナガシジミやアカシジミ、ウラナミアカシジミが飛び出すのでお気に入りのポイントだった。

ここでの忘れられない光景がある。夏休み前の良く晴れた日に訪れた時のことだった。湿地は一面のセリの花で埋め尽くされていた。その中を無数のキアゲハが飛び回っていた。あまりの美しさに時を忘れて眺めていた。



京都国際会館予定地を南側の山から見る。左端に見えるのが宝ヶ池 (1956年)。中村治「京都洛北の原風景」(2000. 世界思想社) より

チョウから見た大原の環境

大原のオオムラサキを守る会

チョウは多くの昆虫の中でも、人はもっとも親しみを持って接してきた。それゆえにこれまで、それぞれの種の生活史や生態が最もよく調べられてきている。またそれを用いた環境評価法もいくつか考案されてきた。ここでは 2024 年に行ったルートセンサスの結果¹⁾から、3通りの評価法を用いて、大原の環境について考えた。

1. 個体数 10 位までの種²⁾

ルートセンサスで発見できた上位 10 種までをあげると、表 1 のようになった。

これによると、大原では森林・林縁性のチョウが少なく、草原や人工的な環境に住むチョウが多いという結果になった。

2. 巢瀬の環境指数³⁾を用いて

巢瀬氏はすべての種に 1～3 の数値を割り振った。数値が大きいほど自然度の高い環境に住む種である。この数値を、ルートセンサスで発見した種に当てはめたのが表 2 である。

その数値の合計は 82 であった。これを巢瀬の環境評価表（表 3）から判断すると、大原の環境は中自然で、農村・人里の環境という結果になった。

3. 田中の環境階級存在比（ER）⁴⁾を用いて

田中氏は種類だけでなく個体数も加味した ER 値というもので、環境を評価することを考えた。算出の過程は、煩雑ではあるが表 4 に示した。それに基づく ER 値の算出結果を表 5 に示した。これによると大原の環境は、

- ・原始段階（非定住非利用）の要素が 1.9（19%）
- ・二次段階（非定住利用）の要素が 3.5（35%）
- ・三次段階（農村・人里）の要素が 3.4（34%）
- ・四次段階（都市・工業社会）の要素が 1.2（12%）、となった。

これは大原が人の非定住利用の環境が最も多いが、ほぼ同様に農村・人里の環境が多いことを表している。

4. まとめ

以上の 3 つの異なった評価方法から大原の環境を総合的に判断すると、大原は森林環境が脆弱で都市化の影響もみられるものの、農村・人里の要素が強く草地も広がっていて、まだ多くのチョウが住める環境にあるといえる。

2024 年のルートセンサスで 42 種のチョウに出会えた。これからも多くのチョウが舞い飛ぶ、美しい大原の環境を維持・管理していくことは、将来に向けての私たちの務めであると考ええる。

なお、この報告は、大原のオオムラサキを守る会の活動 20 周年記念展示の掲示物「チョウから見た大原の環境」に加筆修正したものである。（文責：藤野適宏）

参考文献

- 1) 大原のオオムラサキを守る会：2025. 大原 ルートセンサス報告. 大原の里と比良の山, 12, 3-6.
- 2) 宮武頼夫：2023. 奈良県橿原市南山のチョウ相. 橿原市昆虫館報告, 2-1, 1-9.
- 3) 巢瀬司：1993. 蝶類群集研究の一方法. 日本鱗翅学会編, 日本産蝶類の衰亡と保護. 2, 83-90.
- 4) 田中蕃：1988. 蝶による環境評価の一方法. 「蝶類学の最近の進歩」. 日本鱗翅学会特別報告, 6, 527-566.

表 1 個体数 10 位までの種

順位	種 名	生息環境	個体数
1位	ヤマトシジミ	※	550
2位	ヒメウラナミジャノメ	G	255
3位	モンシロチョウ	※	222
4位	キタキチョウ	F	122
5位	モンキチョウ	G	52
6位	ツバメシジミ	G	45
6位	ベニシジミ	G	45
8位	カタテハ	G	44
9位	ウラナミシジミ	※	42
10位	ツマグロヒョウモン	※	20

F:森林・林縁性、G:草原性、※:人工的な環境でも住める種

表 2 巣瀬の環境指数

科名	種 名	巣瀬の指数
ア	アオスジアゲハ	1
ゲ	クロアゲハ	2
ハ	アゲハ	1
チ	キアゲハ	2
ウ	カラスアゲハ	3
	オナガアゲハ	3
	モンシロチョウ	1
チ	シキタキチョウ	2
ヨ	ロモンキチョウ	2
ウ	ツマキチョウ	2
	ウラギンシジミ	2
	ムラサキシジミ	2
シ	トラフシジミ	2
ジ	ウラゴマダラシジミ	2
ミ	キマダラルリツバメ	2
チ	ベニシジミ	1
ヨ	ウラナミシジミ	1
ウ	ヤマトシジミ	1
	ツバメシジミ	2
	ルリシジミ	2
	テングチョウ	2
	カタテハ	2
	アカタテハ	2
	ヒメアカタテハ	2
	ミドリヒョウモン	2
タ	ツマグロヒョウモン	1
テ	コミスジ	2
ハ	ミスジチョウ	3
チ	イチモンジチョウ	2
ヨ	アサマイチモンジ	2
ウ	サトキマダラヒカゲ	2
	ヒメウラナミジャノメ	2
	ヒメジャノメ	3
	クロコノマチョウ	3
	ヒカゲチョウ	2
	ダイミョウセセリ	3
セ	クロセセリ	2
セ	ヒメキマダラセセリ	2
リ	キマダラセセリ	2
チ	チャバネセセリ	2
ヨ	オオチャバネセセリ	2
ウ	イチモンジセセリ	1
	計	82

表 3 巣瀬の環境評価表

環境指数	環境のランク	具体的な環境
0～9	貧自然	都市中央部
10～39	寡自然	住宅地・公園緑地
40～99	中自然	農村・人里
100～149	多自然	良好な林や草原
150～	富自然	極めて良好な林や草原

(巣瀬、1998)

表 4 環境階級存在比 (ER) 算出の過程

種 名	補正値合計					生息分布度					指標値				
	T	α	β	γ	δ	I	$T \cdot I$	$\alpha \cdot T \cdot I$	$\beta \cdot T \cdot I$	$\gamma \cdot T \cdot I$	$\delta \cdot T \cdot I$				
アオスジアゲハ	4.6	3	3	3	1	1	4.6	13.9	13.9	13.9	4.6				
クロアゲハ	10.6	4	3	3		1	10.6	42.4	31.8	31.8	0.0				
アゲハ	9.6	1	3	4	2	1	9.6	9.6	28.9	38.6	19.3				
キアゲハ	9.2	3	3	3	1	1	9.2	27.5	27.5	27.5	9.2				
カラスアゲハ	5.0	5	3	2		2	10.0	50.0	30.0	20.0	0.0				
オナガアゲハ	2.1	5	4	1		2	4.3	21.4	17.1	4.3	0.0				
モンシロチョウ	553.4	1	1	6	2	2	1106.8	1106.8	1106.8	6640.8	2213.6				
キタキチョウ	265.4	1	4	3	2	1	265.4	265.4	1061.7	796.3	530.9				
モンキチョウ	125.3	3	3	3	1	1	125.3	375.9	375.9	375.9	125.3				
ツマキチョウ	2.5	4	3	3		2	5.0	20.0	15.0	15.0	0.0				
ウラギンシジミ	31.5	2	6	2		2	63.0	126.1	378.3	126.1	0.0				
ムラサキシジミ	17.7	5	3	2		2	35.3	176.7	106.0	70.7	0.0				
トラフシジミ	2.1	2	6	2		3	6.4	12.9	38.6	12.9	0.0				
ウラゴマダラシジミ	2.5	4	5	1		2	5.0	20.0	25.0	5.0	0.0				
キマダラルリツバメ	3.0	9	1			4	12.0	0.0	108.0	12.0	0.0				
ベニシジミ	110.6	3	2	3	2	1	110.6	331.8	221.2	331.8	221.2				
ウラナミシジミ	82.6		2	5	3	1	82.6	0.0	165.3	413.2	247.9				
ヤマトシジミ	1184.3	2	2	4	2	1	1184.3	2368.6	2368.6	4737.2	2368.6				
ツバメシジミ	102.0	3	3	2	2	1	102.0	306.1	306.1	204.0	204.0				
ルリシジミ	40.8	3	3	2	2	1	40.8	122.4	122.4	81.6	81.6				
テングチョウ	20.2	5	3	2		2	40.5	202.3	121.4	80.9	0.0				
カタテハ	95.9	2	3	3	2	1	95.9	191.8	287.7	287.7	191.8				
アカタテハ	14.2	1	4	4	1	1	14.2	14.2	56.7	56.7	14.2				
ヒメアカタテハ	3.3	3	3	3	1	1	3.3	10.0	10.0	10.0	3.3				
ミドリヒョウモン	2.5	1	9			4	10.0	10.0	90.0	0.0	0.0				
ツマグロヒョウモン	40.0	3	3	3	1	1	40.0	120.0	120.0	120.0	40.0				
コミスジ	11.0		5	5		2	21.9	0.0	109.5	109.5	0.0				
ミスジチョウ	2.5		8	2		4	10.0	0.0	80.0	20.0	0.0				
イチモンジチョウ	17.5	2	6	2		3	52.5	105.0	315.0	105.0	0.0				
アサマイチモンジ	15.2		8	2		4	60.9	0.0	487.3	121.8	0.0				
サトキマダラヒカゲ	29.6	2	6	2		3	88.9	177.9	533.6	177.9	0.0				
ヒメウラナミジャノメ	602.9	2	6	2		2	1205.8	2411.6	7234.8	2411.6	0.0				
ヒメジャノメ	4.6		6	4		3	13.9	0.0	83.6	55.7	0.0				
クロコノマチョウ	28.7	6	3	1		3	86.0	516.1	258.1	86.0	0.0				
ヒカゲチョウ	49.7	2		8		4	198.9	397.7	1590.9	0.0	0.0				
ダイミョウセセリ	18.6	1	6	3		3	55.7	55.7	334.3	167.1	0.0				
クロセセリ	3.3	2	6	2		3	10.0	20.0	60.0	20.0	0.0				
ヒメキマダラセセリ	10.0	3	5	2		2	20.0	60.0	100.0	40.0	0.0				
キマダラセセリ	17.1	3	3	3	1	1	17.1	51.4	51.4	51.4	17.1				
チャバネセセリ	33.2	3	2	3	2	1	33.2	99.6	66.4	99.6	66.4				
オオチャバネセセリ	6.1	4	4	2		2	12.1	48.5	48.5	24.2	0.0				
イチモンジセセリ	16.7	2	3	3	2	1	16.7	33.3	50.0	50.0	33.3				
合計							5300.6	9922.7	18637.1	18053.8	6392.4				
ER値								1.9	3.5	3.4	1.2				

*補正値合計A……各調査における所要時間は長短があるので、それをすべて150分間調査した値に換算した。Tはその換算値の合計

*生息分布度…… α :primitive stage (ps,一時段階,原始段階)、 β :afforested stage (as,二次段階,非定住利用段階)、 γ :rural stage (rs,三次段階,農村段階)、 δ :urban stage (us,四次段階,都市段階)

*指標値I……各種の環境指標性、1～5、数値が大きいほど指標性大

*ER値……環境階級存在比 (4つの段階のうちどの段階に属する種が多いか)

たとえば、原始段階 (ps)のERは、
$$ER_{(ps)} = \frac{\sum_{i=1}^n \alpha_i \cdot T_i \cdot I_i}{\sum T_i \cdot I_i}$$

表 5 ER 値算出結果

ER値	1.9	3.5	3.4	1.2
階級	ps	as	rs	us
人口化	原始段階	二次段階	三次段階	四次段階
の段階	非定住非利用	非定住利用	農村・人里	都市・工業社会
	極相林	植栽林	伐採跡地	公園緑地
森林的	天然更新林	薪炭林	採草地	住宅地
環境		疎林・林縁	耕作地	工場
				ビル街
	森林ステップ	放牧地	牧草地	公園緑地
草原的	低木原	採草地	耕作地	住宅地
環境	荒原			工場
				ビル街

「大原の里と比良の山」2024 年度総目次

創刊号 2024. 4. 10

創刊までの経緯	藤野適宏	1
特別展示「大原のアサギマダラとフジバカマ」開催！		2
先月のおもな活動報告	奥谷 功・小松清弘・藤野適宏・的場亮一	3

第2号 2024. 5. 10

びわ湖バレイのシカによる食害	的場亮一	1
2023 年びわ湖バレイ ルートセンサス報告		
新 BV アサギマダラの会（藤野適宏・大友正生・的場亮一・小松清弘・塩尻 哲）		3
学校越冬幼虫調査ー18 年の軌跡ー	藤野適宏	9
先月のおもな活動報告	奥谷 功・小松清弘	9
あとがき	藤野適宏	10

第3号 2024. 6. 10

おじさんたちの遠足 T0 箕面	大友正生	1
大原で採集したチョウの異常型（1）	小松清弘	2
飼育網室内のオオムラサキー越冬幼虫数と羽化数ー	大原のオオムラサキを守る会	3
先月のおもな活動報告	藤野適宏・小松清弘・大友正生・奥谷 功	4
あとがき	藤野適宏	6

第4号 2024. 7. 10

簡易ライトトラップ試行報告	小松清弘	1
え？ アリじゃないの？ ありえな〜い！	的場亮一	3
6 月おもな活動報告	奥谷 功・小松清弘・大友正生	4
あとがき	藤野適宏	6

第5号 2024. 8. 10

命あるものを自然に戻す	牧野茂樹	1
大原で採集したチョウの異常型（2）	小松清弘	2
大原のオオムラサキの幼虫は何齢で越冬するのか	大原のオオムラサキを守る会	3
7 月おもな活動報告	奥谷 功・大友正生	4
あとがき	藤野適宏	6

第6号 2024. 9. 10

大原で採集したチョウの異常型（3）	小松清弘	1
吉田山の蟬	上田寿一	1
大原由来のフジバカマ	藤野適宏	2
8 月おもな活動報告	奥谷 功・小松清弘・大友正生	4
あとがき	藤野適宏	6

第7号 2024. 10. 10

擬態-生き残り戦略-だましの技術	的場亮一	1
羽化したオオムラサキは雌雄の数に違いがあるか	大原のオオムラサキを守る会	4

9 月おもな活動報告	小松清弘・奥谷 功・大友正生	4
あとがき	藤野適宏	6

第 8 号 2024. 11. 10

「アサギマダラの里」訪問記	小松清弘	1
大原のオオムラサキの天敵	藤野適宏	2
10 月おもな活動報告	奥谷 功・藤野適宏・大友正生	4

第 9 号 2024. 12. 10

私の虫遍歴	村上 豊	1
大隅半島とアサギマダラ	藤野適宏	5
11 月おもな活動報告	小松清弘・奥谷 功・藤野適宏	7

第 10 号 2025. 1. 10

私の虫取り物語 (1) チョウ採集事始め	小松清弘	1
大原のアサギマダラ標識調査報告 (2024 年度南下移動期) 大原のオオムラサキを守る会	1	
3 つの調査結果から見た大原のトンボ (I)	大原のオオムラサキを守る会	3
オオムラサキは一度に何個産卵するか	藤野適宏	7
12 月おもな活動の報告	奥谷 功・小松清弘	7
あとがき	藤野適宏	8

第 11 号 2025. 2. 10

大原のオオムラサキにたどり着くまで	的場亮一	1
オオムラサキ野外越冬幼虫調査で発見された昆虫	藤野適宏	4
守っていききたい大原の希少な昆虫	大原のオオムラサキを守る会	5
網室内オオムラサキ越冬幼虫一斉捜査の結果報告	大原のオオムラサキを守る会	7
1 月おもな活動の報告	奥谷 功	7
あとがき	藤野適宏	8

第 12 号 2025. 3. 20

UMA (未確認生物) ! ツチノコ ?	的場亮一	1
大原 ルートセンサス報告	大原のオオムラサキを守る会	3
2 月おもな活動の報告	奥谷 功・小松清弘	7
あとがき	藤野適宏	8

揚羽蝶の家紋

飼育網室の川向うのお宅の壁に揚羽蝶の家紋がある。江戸時代、揚羽蝶の家紋を使用する大名や旗本は少なくなかった。武家のイメージにそぐわないように思うが、変態することから不老不死の象徴であったようだ。その揚羽蝶をボトルのラベルに採用したボー・ペイサーージュという良質のワインを造る会社がある。チョウつながりということで我々の会に寄付をいただいた。有難いことだ。(藤野)



<3 月おもな活動の報告>

◆3 月 5 日 (水) 10 : 00 ~、13 : 00 ~ (報告者 : 奥谷)

○参加者 小松、藤野、木村、的場、塩尻、大友、村上、奥谷、計 8 名

○活動内容

(午前) 大原 BC

- ・ 会議 ① 本日の活動内容
- ② 特別展示について検討
- (1) 展示品等の準備
 - ・ ポスター ・ はがき、ちらし ・ 缶バッジ ・ 琵琶湖博物館参考になる展示品
 - ・ 缶バッジデザイン
- (2) キャッチコピー
- (3) 昆虫のとり方
- (4) I、II の展示パネルの変更
- (5) アンケート
- (6) 展示会開催中の当番 ; 全日当番がつく一各自の都合を聞く
- (7) 案内状の発送 ; 昨年度の芳名帳を分担して全員で発送する

(午後) 大原 BC

- ・ 記念展示の準備作業 ; パネルの作製、標本点検整理
- ・ 会議 ; 会場設営日程、ポスター掲示場所

◆3 月 11 日 (水) 10 : 00 ~、13 : 00 ~ (報告者 : 奥谷)

○参加者 小松、藤野、奥谷、(午後から) 的場、大友、計 5 名

○活動内容

(午前) 大原 B C

- ・ 特別展示について検討
 - (1) I、II の展示場入口変更に伴い展示方法の変更、III の展示方法
 - (2) 展示会開催中の当番 ; 毎日 2 名配置する
 - ・ 記念展示の準備作業 ; パネルの作製、標本点検整理
- (午後) 大原 B C
- ・ 特別展示について検討 ; I、II の展示方法、展示順
 - ・ 記念展示の準備作業 ; パネルの作製、標本点検整理、缶バッジ作成準備

◆3 月 12 日 (水) 10 : 00 ~、13 : 00 ~ (報告者 : 奥谷)

○参加者 小松、藤野、木村、的場、大友、村上、奥谷、計 7 名

○活動内容

(午前) 網室、ドングリ園

- ・ 会議 ① 本日の活動内容 午前、午後
 - ② 展示会の当番について
 - ③ 山下さんより予算の件で連絡
 - ・ 網室内のエノキに施肥
 - ・ 網室外、旧道周辺のエノキの根元に幼虫を放す
 - ・ ドングリ園のエノキの根元に畔シートを設置
- (午後) 大原 BC、大原学院
- ・ パーティションを大原学院より大原 BC に搬入

- ・ 記念展示の準備作業

- ① 見学ルートの検討

- ② I ; パネルの設置、標本の設置

- II、III ; パーティションの設置 ; パネルの配置検討仮置き

◆ 3 月 13 日 (木) 10 : 00 ~、13 : 00 ~ (報告者 : 奥谷)

○ 参加者 小松、藤野、木村、的場、大友、村上、奥谷、計 7 名

○ 活動内容

(午前) 大原 BC

- ・ 会議 ① 本日の活動内容

- ② 展示会の係担当 (小松さんからの係担当表参照)

- ・ 記念展示の準備作業

- I ; パネルの設置、標本の設置

- II、III ; パネルの設置、標本の設置

(午後) 大原 BC

- ・ 記念展示の準備作業、会場設営

- I ; パネルの設置、標本の設置、デザインパネルの作製

- II、III ; パネルの設置、標本の設置、缶バッジの作製

◆ 3 月 14 日 (金) 10 : 00 ~、13 : 00 ~ (報告者 : 奥谷)

○ 参加者 小松 (午後)、藤野、木村、的場、大友、村上 (午前)、奥谷、計 7 名

○ 活動内容 午前、午後、大原 BC

- ・ 特別展の前日準備

- パネル及び標本の設置確認、デザインパネルの作製設置、看板の設置、案内表示板の設置、キャッチコピー板の設置、アンケート用紙の設置、缶バッジの作製設置、他

◆ 3 月 15 日 (土) 10 : 00 ~、13 : 00 ~ (報告者 : 的場)

○ 参加者 大友、村上、木村、的場、藤野 (午前)、小松 (午後) 計 6 名

○ 活動内容

(午前)

- ・ 落下した展示パネル (アサギマダラ) を釘の本数を増やして固定
 - ・ 木村さんが作ってくれた木製台に、ギナンドロモルフ標本箱を固定
 - ・ アンケートとボールペンを板にセット
 - ・ 缶バッジを数 10 個追加作成
 - ・ 水耕栽培のヒヤシンスを 4 か所に設置

(午後)

- ・ 見学者への対応 (記念展示開催期間は会員が輪番制で対応)

◆ 3 月 26 日 (水) 10 : 00 ~ (報告者 : 奥谷)

○ 参加者 小松、藤野、木村、大友、奥谷、計 5 名

○ 活動内容

- ・ 会議 ① 本日の活動内容

- ② 報告・連絡

- ・ セブンイレブン助成金採択連絡あり
 - ・ 大原文化センター祭りより協力依頼—オオムラサキの会の紹介展示
 - ・ オオムラサキの会総会 ; 4 月に特別展示会終了後に行う

- ・活動日の確認；毎月第1, 3水曜日 活動
第2, 4水曜日 ルートセンサス
- ・来年度の予算；里トラの予算とワイン会社寄付金より支出する
- ・日当について
- ・幼虫管理；網室内の保管越冬幼虫を、ドングリ園周辺と土井しばづけ周辺のエノキの根元に放す

【あとがき】

2025年3月15日、活動20周年記念展示「昆虫からみた大原の自然」の開催にこぎつけた。会場は大原文化センター、期間は4月13日までである。この展示は、Ⅰ.大原のオオムラサキと保護活動、Ⅱ.大原のアサギマダラとフジバカマ、Ⅲ.大原の昆虫、の3つの要素で構成されていて、このうちⅠは一昨年の展示、Ⅱは昨年の展示をベースに再構成したものである。Ⅲは新たな企画・構成からなるもので、20年間の活動のひと区切りになることを目指した。

その構成のキーワードは大原の自然である。そのために、2005年に開始したオオムラサキの保護活動や昆虫相の調査、2016年開始のアサギマダラの標識調査等に加えて、2023年にチョウとトンボのルートセンサスを開始した。その調査結果から大原の環境を評価して、地域の人々や来訪者に自然環境の現状を知ってもらおうという試みである。また、作成した案内ポスターやハガキにも3つのキャッチコピーを掲げ、展示会に関心を高めてもらう工夫も行った。来館の皆さんにはアンケートに答えていただき、その意識や反応を把握する試みも行っている。

会員は常時2名が会場に詰めて、来館者の疑問・質問にいつでも答えられるように努めている。おかげで、3月末時点で来館者は100名を越えて、アンケートから大原の環境に対する関心の高さも感じることができている。それらの全体を読み解くのは4月13日を過ぎてからだが、どのような傾向を読み取ることができるのか、今から楽しみである。

20年間のつたない取り組みと展示だが、これまでお世話になってきた地域・学校・行政等への感謝の身持ちの表れのひとつになればと願っている。(藤野)

= 目 次 =

私の虫採り物語 (2) 懐かしの宝ヶ池	1
チョウから見た大原の環境	2
「大原の里と比良の山」2024年度総目次	4
揚羽蝶の家紋	5
3月おもな活動の報告	6
あとがき・目次	8

発行 大原のオオムラサキを守る会・蓬莱むしの会 2025年4月10日 第13号

大原のオオムラサキを守る会 〒606-0044 京都市左京区上高野仲町54 小松清弘

蓬莱むしの会 〒520-0105 大津市下坂本1-40-16 大友正生

編集 〒611-0011 宇治市五ヶ庄西川原21-151 藤野適宏